

授 業 科 目 名	教育の方法と技術	教 員 名	渡邊 裕 小林 博典	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
					保育士	
授 業 形 態	講義	担当形態	複数	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
科 目 番 号	SID207	配当年次	2 年前期		小幼コース	
単 位 数	2 単位				幼保コース	
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）（幼稚園、小学校）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	・教育の方法と技術（情報機器及び教材の活用を含む。）					
一 般 目 標	全体目標： 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 (1)教育の方法論 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。 (2)教育の技術 教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。 (3)情報機器及び教材の活用 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。					
到 達 目 標	(1)教育の方法論 1)教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2)これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解している。 3)学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。 4)学習評価の基礎的な考え方を理解している。 ※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」 (2)教育の技術 1)話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 2)基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 (3)情報機器及び教材の活用 1)子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。 ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」 2)子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、学科のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている、6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 の 概 要	今日学校教育においては、児童の発達段階や個性に応じた様々な教育の方法及び技術が求められる。また、情報機器を活用した効果的な授業を行い、情報活用能力を育成するため、電子黒板などのICT機器の活用方法及び技術を習得することが重要である。					

	本講義では、教育目標に向かって子どもの成長発達を促すための授業構成と学習構成の理論的な理解、そして具体的な教育の方法・技術について学習する。そして、子どもの学びを促進する授業・学習の理論的理解と教育の方法と技術を習得する。さらに講義の終盤では、学習指導案や部分実習指導案の作成を通して、授業の目標、内容、指導、評価に関する理論的知識の習得とともに、望ましい教育方法の在り方を研究する。授業形態は講義とする。アクティブラーニングとして、振り返り、レポート等を取り入れる。
授 業 計 画	第1回：子どもたちに育みたい資質・能力と授業力（渡邊裕） これからの社会を生きていく子どもたちに求められる力はどのようなものであり、そのための教育の方法として何を学ぶ必要があるのかを考えることにより、教師に求められる力と授業実践に関わる知識がどのようなものであるのかについて理解する。（目標（1）-1、（1）-2） 第2回：日本における教育制度の概観（渡邊裕） 日本の教育制度の根幹を為す法制度を確認し、保育所保育指針、幼稚園教育要領、学習指導要領の改訂の変遷について理解する。その上で現行の保育・教育制度における目的や目標を確認し、検定教科書に関する制度について理解する。（目標（1）-1、（1）-2） 第3回：授業の設計と実践・評価（渡邊裕） 年間指導計画、単元の指導計画、1時間の授業の関係を理解した上で、授業の基本形について学ぶ。授業を主体的・対話的で深い学びにするために、教科書や教材の活用や学習規律の必要性について理解する。また学習評価の基礎的な考え方について、評価の方法やバイアス、絶対評価と相対評価、観点別評価について理解する。（目標（1）-1、（1）-2、（1）-4） 第4回：学習環境のデザインと情報技術（渡邊裕） 子どもたちの学びを支援するという観点から学習環境について理解を深める。学習環境の何をどのようにデザインするべきかについて具体例を挙げながら検討する。また社会全体のデジタル化が進む中で学習環境にも大きな変化が生じている現状について理解する。（目標（1）-1、（1）-2、（1）-3） 第5回：教師に求められる指導技術（渡邊裕） 授業における教師としての立ち振る舞いについて理解する。発問、指示、説明、応答、黒板や白板、資料の提示など、具体的な場面における方法について考える。またICTを活用した指導場面における方法や技術にはどのようなものがあるかについても理解を深める。（目標（1）-3、（2）-1） 第6回：子どもたちの学びを引き出すための指導技術（渡邊裕） 学習者が中心となる学びを目指すために必要な方法と技術について考える。授業における机間巡視やノートの指導等を例に理解を深める。多様な特性をもつ子どもたちの学びを支援するためには、子どもたち同士が学び合う関係が重要であり、そのためのICTの役割についても理解を深める。（目標（1）-2、（1）-3、（2）-1） 第7回：指導案の設計と教材研究（渡邊裕） 学習指導案や部分実習指導案の作成方法について学ぶ。指導案の書き方の基本を理解し、授業の根幹をなす学習目標を明確にすることについて、具体例とともに理解する。また、深い学びを導くために必要な教科書や教材の役割について考え、適切に活用するための方法について理解を深める。（目標（1）-3、（2）-1、（2）-2） 第8回：教育の情報化について（小林博典） 「教育の情報化」の全体像を捉えるとともに、教育の情報化が推進されている背景や、学習指導

要領における教育の情報化の位置付けを理解する。（目標（1）-1）

第9回：教師によるICT活用（小林博典）

ICTを活用した効果的な教室環境づくりや教材収集・作成に関して学ぶとともに、教育方法の理論を踏まえながらICTを効果的に活用した計画やわかる授業・保育を実践する方策について理解する。（目標（2）-1、（2）-2）

第10回：

【小幼コース】子どものICT活用（小林博典）

子どもによるICT活用が求められる意義や期待される効果について教師によるICT活用と対比して学ぶとともに、具体的な学習場面と日常的な活用によりICTの基本的な操作を習得させる意義や方法を理解する。（目標（3）-1）

【幼保コース】幼児教育現場におけるICT活用（渡邊裕）

幼児教育や保育の現場におけるICT活用の現状について理解する。校務の情報化により、教職員がICTを活用した情報共有を行うことや、校務の軽減に活用するなどの実例を学び、理解を深める。（目標（3）-1、（3）-2）

第11回：

【小幼コース】情報活用能力の育成（小林博典）

小学校の情報教育について、情報活用能力の定義とその育成の動向について学ぶとともに、情報活用能力を育成する教材開発に関して、各教科・領域の中で指導する教科横断型教材と教科をもとにする指導する教科型教材について理解する。（目標（3）-1）

【幼保コース】幼児教育現場における視聴覚メディアの活用（渡邊裕）

幼児に対する指導場面でICT機器を活用していく可能性について学ぶ。幼児教育や保育の現場で活用されている視聴覚メディアについて概観し、伝統的な視聴覚メディアの一つである紙芝居の活用について理解する。（目標（3）-1、（3）-2）

第12回：

【小幼コース】情報モラル教育（小林博典）

情報モラル教育や、デジタル・シティズンシップ教育の必要性について学び、メディアや情報社会に関する科学的な理解を踏まえた実践例や授業づくりの考え方について理解する。（目標（3）-2）

【幼保コース】ICTを活用した教材の構想（渡邊裕）

ICTを活用した教材製作の一例として簡易な紙芝居の製作を取り上げる。個人またはグループ毎に紙芝居の構想を立案する。その上でPC等のICT機器を活用し、製作・実演する方法の検討を行う。（目標（3）-1、（3）-2）

第13回：

【小幼コース】プログラミング教育（小林博典）

小学校におけるプログラミング教育の位置づけや、「プログラミング的思考」とは何かについて、目指すものについて小学校学習指導要領や「小学校プログラミング教育の手引」から学び、プログラミングを学ばせる手順や具体的な授業の方法について理解する。（目標（2）-1）

【幼保コース】ICTを活用した教材の作成（渡邊裕）

PC等のICT機器を活用し、紙芝居の製作を行う。表（絵）と裏（脚本）を用意し、それぞれ電子データ上で製作を行う。最終的に紙に印刷したものと電子媒体の二つを製作する。（目標（3）-1、（3）-2）

	第14回： 【小幼コース】模擬授業の構想と準備（小林博典） 教師・児童のそれぞれがICTを活用する授業を構想し、プランを作成して、教師の指示・発問を考えたり、児童の反応を想定したりして、模擬授業を行う準備をする。（目標（2）-1、（2）-2） 【幼保コース】部分実習指導案の作成（渡邊裕） PC等のICT機器を活用して製作した教材を用いて、幼児を対象とした部分実習指導案を作成する。 その上で、模擬的な部分実習活動を行うための準備をする。（目標（2）-2、（3）-1、（3）-2） 第15回： 【小幼コース】模擬授業の実施と検討（小林博典） グループ内でICTを活用した模擬授業を行い、それぞれの良かったところや改善点などを出し合い、全体で共有する。（目標（2）-1、（2）-2） 【幼保コース】模擬保育活動の実践と検討（渡邊裕） グループで模擬保育活動の実践を行う。振り返りを通して、幼児教育におけるICT活用の効果と課題を協議し、理解を深める。（目標（2）-1、（3）-1、（3）-2） 定期試験：試験期間中に実施する。
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験（40%）、レポート（40%）、授業内課題提出（20%）を総合して評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。Google Classroomを活用してコメント返信することがある。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
授 業 外 学 習 に つ い て	（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。） 毎回の講義では、事前学習として、講義前に配布されたプリントやGoogle Classroom、ロイロノートに掲載された資料、指示された教科書・参考書を読み、重要な箇所についてマークするなど事前に把握・勉強しておくこと。また、事後学習として、講義で学んだことはカラーペン等でマークし、さらに板書等を書きこみ、要点等を整理して一冊のノートにまとめること。また、毎週土日に必ず振り返りを行うこと。
テ キ ス ト	適宜、講義で配付する。
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	参考書： ・情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術 堀田龍也・佐藤和紀編著 三省堂 ・教職課程研究会 山下省蔵編著 教職必修 教育の方法と技術 実教出版 ・平沢茂編著 教育の方法と技術 図書文化社 ・柴田義松編著 教育の方法と技術 学文社 ・師岡章編著 幼児教育の指導法 放送大学教育振興会 参考資料等：文部科学省 資料：学習評価・指導要録 関係報告・通知
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	学校教育では、子どもの学びの成果である学力に関する議論や、それを育てる授業作りにおいて不可欠なことが多くあります。それらを関連付けて一つ一つ理解し、実践に活かせるようにする必要があります。授業の内容がどのように関連付くのかを整理し、理解が及ばなかったことは、オフィスアワーの時間を活用して、必ず理解するように努めてください。
オフィスアワー	渡邊裕：火曜日 4限 小林博典：授業後、あるいはメールにて対応する。